

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611610035		
法人名	医療法人 照陽会		
事業所名	笠井病院グループホーム		
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-2		
自己評価作成日	平成26年6月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、利用者や家族との円滑な関係の構築に努めている。利用者一人ひとりが自分らしく楽しく過ごす事ができる環境作りに取り組んでいる。また、同一法人の医療機関との連携を密にとり、緊急時における迅速な対応が可能な体制を構築している。安心・安全な生活を送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、県西部の国道沿いの一画に位置している。事業所の共有空間には、季節感のある作品を飾ったり、行事の写真をアルバムとして残したりしており、家庭的で暖かい雰囲気がある。利用者は、買い物や友人宅への外出等を楽しんでいる。また、利用者一人ひとりの希望に応じて、個別の外出や遠出、おやつづくりなどを楽しんでもらっている。近隣の方や家族の面会、ボランティアなどの来訪者も多く、継続的に地域と交流することができるよう取り組んでいる。管理者が中心となって、職員間で連携を図り、利用者の尊厳や権利を尊重しつつ寄りそう介護を実践している。また、敷地内に同一法人の運営する医療機関があり、医療連携を密に図る体制を構築していることから、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の共有空間に理念を提示し、職員間で共有し日頃の実践に繋げている。	全職員で検討した理念を掲げている。事業所内に理念を掲示し、地域密着型サービスの意義を職員間で共有しつつ、具体的なケアのあり方の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員や理美容師の訪問がある。また、地元の祭り等に参加したり、地元少年野球の観戦に招待していただいている。その際、地域の方から声をかけてもらったりして交流を深めている。	事業所では、地元の野球チームの応援に出かけたり、ボランティアや民生委員等の来訪を受け入れたりして積極的に地域との交流を行っている。日頃から地域住民と挨拶を交わすなど、顔なじみの関係を築いている。近所の方から野菜の差し入れをもらうこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に事業所見学の希望を受け入れている。事業所の行事には、地域住民やボランティアの方に参加していただく事もあり交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、サービスの実施状況、行事報告、利用者の状況等の報告を行っている。参加者からいただいた提案や意見は日々の運営に活かされるよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催されている。利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の出席を得ている。積極的な会議運営を行っており、出された意見は職員間で話しあい、サービスの質の向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに市担当者に報告、相談、連絡を行い助言していただいている。また、運営推進会議に参加していただき、提案や助言をいただいている。	事業所は、市介護保険課と密に連携を図り、困難事例や受け入れなどに関する相談や報告を行っている。市担当者等から得た助言や意見を運営面に反映させるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する研修を行い、安全で自由な暮らしの支援を行っている。日中は見守りを徹底し施錠を行わず、ドアチャイムを設置し開閉時には確認ができるようにし、拘束のないケアに取り組んでいる。	年1回、同一法人の運営する他サービス事業所の開催する職場内研修等へ積極的に参加し、全職員が身体拘束による弊害について理解することができるよう取り組んでいる。また、カンファレンスの際などに、自らのケアを振り返り、安全面に配慮しつつ自由な暮らしを支えることができるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、言葉遣い、対応等について日頃から自分たちのケアの確認を行っている。高齢者虐待防止関係の研修にも参加し虐待の起こらない現場作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で開催している権利擁護や成年後見制度の研修会に参加し学習している。現在、該当者はいないが、必要時対応できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了時には、十分な説明を行い同意を得ている。不安や疑問点は、その都度お聞きし、理解、納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から思いを把握出来るように努めている。また、家族の面会時には、意見や要望等を気軽に話してもらいやすい雰囲気を作っている。	家族の面会時に、希望や意見等を聞くようにしている。また、利用者や家族が希望や意見等を表出しやすいよう留意している。出された意見等は、職員会議の際に検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から現場の職員とコミュニケーションを図り、職員から提案された意見に耳を傾け、検討し運営に反映させている。	代表者や管理者は、つねに職員とコミュニケーションを図るよう心がけている。職員の意見を運営面に取り入れるよう努めており、職員の働く意欲や学ぶ意欲に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が研修を受講する機会をもうけ、技術や知識を身につける事で、向上心を持って働けるよう配慮し、職場の環境を整えられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、職員が向上心を持って働けるよう、資格取得や研修参加への支援を行っている。年2回健康診断を行い健康管理を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会があり、相互訪問や情報交換等を行い、日々のケアやサービスの質が向上できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望をお聞きし、困りごとや不安を少しでも除けるよう努めている。また、見学も随時受け付けており、本人や家族に納得していただいた上でサービスを導入するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場にたって考え要望をお聞きし、どのような対応ができるか話し合いを行っている。電話での相談も随時行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを受け止め、お聞きした実情や要望をもとに支援を行っている。必要に応じて他のサービスの調整を行い、安心、納得しながら利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が一緒に過ごしていく中で、喜怒哀楽を共にし、お互いの気持ちを伝えあい。できる事はしていただき、できない事は一緒にする事で、共に支えあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日頃の状況を伝え情報交換を行っている。本人が不安を感じている時には、家族と協力して支援を行うようにし、家族間での良好な関係が保てるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会があった時は、面会者の記録簿を作成し、家族との会話の中で、馴染みの関係者の把握に努めている。来訪者が訪れやすいと感じてもらえるようなホーム作りに取り組んでいる。	家族へ年賀状を出したり、友人宅やお墓参りへ出かけたりして、地域社会との関係性の把握や利用者がこれまで培ってきた人間関係を継続することができるよう支援している。家族とともに、利用者一人ひとりの馴染みの関係を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、利用者同士がより良好な関係が保てるよう、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて家族からの相談等に対応できるよう努めている。また、住み替えが必要となった場合においても情報提供を行い、その方に応じて経過を見守るよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や表情から、本人の思いをくみ取れるようにしている。また、家族とも常に話し合い、情報を得て意向の把握に努めている。常に本人の視点にたつて検討している。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、会話や些細な表情の変化等に着目し、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族から情報を得たり、全職員で本人の意向を汲み取ったりして、本人がその人らしく暮らすことができるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日々の関わりの中で、気づいた事や習慣等を記録している。家族の面会時には、これまでの本人の暮らし方をお聞きし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の様子やレクリエーション等の様子から、心身の状態や能力を把握し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らしていけるよう、本人や家族の視点にたつて考え、現状に応じた介護計画を作成している。	本人や家族、関係者間で話しあい、その人らしい暮らしを続けるための自立支援に向け、チームで介護計画を作成している。3か月に1回、介護計画を見直し、月1回はモニタリングを行うなど、利用者一人ひとりの状況変化に応じた柔軟な対応を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに、日頃の様子や変化を記録し、職員間で情報を共有し、状況に応じた対応ができるよう支援を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から要望を聞き、状況に応じて、できるだけ要望にそえるよう柔軟な支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容師の訪問があり 希望者にはカットをしてあげている。民生委員やボランティアの訪問もあり安心して暮らしているよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の希望を聞き、納得の得られたかかりつけ医との関係を築いている。他病院へ通院する場合は、家族に付き添っていただき受診している。歯科受診は、協力医に訪問診療をしていただいている。	家族の協力のもと、本人の希望するかかりつけ医の受診を支援している。緊急時対応のための連携体制を整備し、週3回、同一法人の運営する医療機関の医師による訪問診療を受けており、本人や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の医療機関と24時間連絡をとれる体制を構築している。看護師との連携を密にとり、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体法人の医療機関へ入院した際は、病院関係者と情報交換を行っている。他の医療機関へ入院となった場合は、医師を通じて情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族との日々の関わりの中で、意向を把握し、事業所で出来ることの説明を行った上で、本人や家族にとって最良の方針をとれるように努めている。	看取りの指針を整備し、本人の状況に応じて同意を交わしている。必要のあるたび、本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医や関係者間で話しあって対応方針の共有化を図っている。本人や家族の意向にそうすることができるよう関係者間で連携をとって支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し研修を行っている。また、母体法人の医療機関と24時間連絡できる体制を構築し、早急に対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いのもと母体医療機関と合同で避難訓練を行っている。また、グループホームでは、緊急持ち出し袋を準備し玄関や居室に設置し、定期的に夜間、水害、非常時等の避難訓練を行っている。	年2回、消防署の協力を得たうえで、法人全体で避難訓練を実施している。また、水害や地震等、あらゆる災害を想定して独自の訓練も行っている。災害時に備え、備蓄品を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や個人情報の取り扱いに関する研修会に参加している。日頃の会話の中でも本人の気持ちを大切に、言葉かけや対応を行っている。	利用者一人ひとりの性格や習慣、意見等を尊重し、自尊心を傷つけることのないよう声かけなどに留意した対応を行っている。プライバシー確保等に関する研修会を開催し、全職員が統一した対応を行うことができるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう声かけを行っている。意思表示が困難な方には表情から読み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの心身状況に配慮した上で、思い通りに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みに合わせて着替えが出来るように支援している。職員は、見守りを行い、介助が必要な方にはさりげなく手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体医療機関で、管理栄養士の栄養管理のもと調理された物を事業所に運び、一人ひとりの状態に合わせた形態にして提供している。季節の食材を収穫し、おやつを作る事もある。	同一法人の運営する医療機関の管理栄養士の献立のもとに調理した食事を事業所に持ち込んでいる。事業所からは、残食や嗜好等を報告している。利用者が季節を感じることができるよう、事業所で収穫した旬の野菜を食材に用いたり、手作りおやつや行事食では好みを取り入れたりして、利用者とともに食事を楽しむようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、管理栄養士が考え調理師が調理した物を提供している。職員は、食事量、水分量を記録し、一日を通して一人ひとりの状態が把握できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声かけにより、本人の状態に応じた口腔ケアの支援を行っている。食事前には口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェックを記録し、排泄パターンの把握に努めている。本人の状態に応じて、さりげなく声かけを行い、トイレへの誘導を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状況に応じて、なるべくトイレで自立して排泄することができるよう支援している。介助を行う際には、声かけをさりげなく行うなどの配慮を行い、プライバシーを損なうことのないよう留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄や水分摂取量のチェックを行い、パターンの把握に努めている。日中適度な運動を心がけ自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心や負担感を配慮し、利用者の希望に応じた入浴の支援を行っている。入浴が困難な方には清拭や足浴を行い、気持ちよく過ごしていただけるよう支援を行っている。	利用者一人ひとりの希望や心身状況に応じて入浴を楽しんでもらうことができるよう支援している。プライバシーにも配慮するよう努めている。入浴を拒む利用者には、声かけや気分転換を図るほか、清拭や足浴を行うなどして、本人の意向にそった入浴を支援しつつ清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に睡眠が取れるよう、日中は体調を見ながら、外気浴やリハビリ体操を行い、活動時間に留意している。また、個々のペースに合わせて、いつでも休息が取れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個別の保管ケースを使用し、誤薬や飲み忘れがないよう、薬包に日付等を記載し職員が管理している。母体医療機関との連携に努め、身体状況や症状の変化を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、洗濯物たたみ等をしていただいている。おやつを一緒に作ったり、職員が作って提供している。家庭菜園があり、野菜等の収穫を一緒に行い調理、試食する事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内での家族を交えての花見、地元の初詣、秋祭り、隣町でのチューリップや蘭の見学に出かけている。その方の状態に応じて、買い物に職員と一緒に出かける事もある。	天候の良い日には、近所を散歩したり、買い物へ出かけたりにして気分転換を図っている。また、季節の外出行事を企画することもある。利用者一人ひとりが、その人らしい暮らしを保ちつつ、生き生きと暮らすことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で少額のお金を管理されている方もいるが、殆どの方が家族が管理している。買い物支援を行う場合は、家族に報告を行い実施し、金銭管理表に記録している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じ、その都度、電話の取り次ぎをしている。希望に応じて孫さんとの年賀状のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、共有空間には季節の飾り付けを行い、季節感が感じられるように努めている。心地よく過ごせるよう室内温度も配慮している。庭にはプランターに季節の花を植えている。	共用空間には、利用者と職員で作成した様々な作品を展示している。また、花を飾るなどして季節感にも配慮している。清掃も行き届いており、利用者が居心地良く過ごすことのできる共同空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを配置し、共有空間の中で、自分の好きな場所で自由に過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、自宅で使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、本人が居心地よく暮らす事ができるよう支援している。	利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう、居室に馴染みの家具や写真等を持ち込んでもらっている。安全面に留意し、家具の配置にも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に応じて、ベッドやポータブルトイレの配置に気をつけている。出来ない事のみ支援し、自立した生活が送れるようにしている。		